

平成18年6月19日
午後1時30分開議
於 議 場

1. 出席議員は次のとおりである(32名)

1番	佐藤博	2番	武田正樹
3番	小坂井実	4番	佐藤高清
5番	立松新治	6番	山本芳照
7番	村井邦彦	8番	新田達也
9番	渡邊昶	10番	伊藤正信
11番	栗田和昌	12番	杉浦敏
13番	炭竈ふく代	14番	三浦義美
15番	浅井葉子	16番	中山金一
17番	前田勝幸	18番	安井光子
19番	佐藤良行	20番	高橋和夫
21番	立松一彦	22番	水野博
23番	高橋清春	24番	木下道郎
25番	宇佐美肇	26番	久保文哉
27番	黒宮喜四美	28番	四方利男
29番	大原功	30番	村上末松
31番	原沢久志	32番	三宮十五郎

2. 欠席議員は次のとおりである(なし)

3. 会議録署名議員

9番	渡邊昶	10番	伊藤正信
----	-----	-----	------

4. 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名(10名)

市長	川瀬輝夫	助役	加藤恒夫
教育長	池田俊弘	総務部長	横井昌明
民生部長兼 福祉事務所長	北岡勤	開発部長	服部輝男
教育部長	平野雄二	十四山支所長	平野瞳
総務課長	佐藤勝義	企画情報課長	村瀬美樹

5. 本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	下里博昭	書記	柴田寿文
書記	飯田宏基		

6 . 議事日程

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 議案第38号 平成18年度弥富市一般会計補正予算（第2号）の
撤回の件

日程第 3 議 案第42号 平成18年度弥富市一般会計補正予算（第3号）の件

午後 1 時 30 分 開議

議長（大原 功君） ただいまより平成18年第 2 回弥富市議会定例会継続議会を開議いたします。

これより会議に入ります。

日程第 1 会議録署名議員の指名

議長（大原 功君） 日程第 1、会議録署名議員の指名をいたします。

会議規則第81条の規定により、渡邊昶議員と伊藤正信議員を指名いたします。

日程第 2 議案第38号 平成18年度弥富市一般会計補正予算（第 2 号）の撤回の件

議長（大原 功君） 日程第 2、議案第38号平成18年度弥富市一般会計補正予算（第 2 号）の撤回の件を議題といたします。

川瀬輝夫市長に撤回の理由の説明を求めます。

市長（川瀬輝夫君） 撤回の理由を述べさせていただきます。

今回、議案の38号の問題でございます。このことに関しまして、市民の皆様方から多様な御意見をいただきましたが、その結果、今日までいろいろと各方面からも、そしてまた議会の方々に議論をいたしまして、総合的に判断した中で、本日改めて議案第38号の予算を取り下げさせていただきますので、よろしく願いいたします。今後、このようなことが二度とないように精いっぱい努力いたしまして、このことが一層起こらないように十分気をつけて行います。したがって、御理解のほどをお願いする次第でございます。改めましておわび申し上げます。以上。

議長（大原 功君） これより質疑に入ります。

質疑の方、ございませんか。

〔「議長 1 番」の声あり〕

議長（大原 功君） 佐藤博議員。

1 番（佐藤 博君） ただいま提案をされ、また撤回の理由を市長から申し上げられたわけではありますが、私は、この問題は大変意義が深いものだと思っております。市民からも随分この問題についてはいろいろ私のところへも電話もありましたし、町の中でもいろいろの問題があったわけであります。したがって、この時代感覚からして、この 2,000万円をかけた歌謡ショーが廃止されるということについては私も同感であります。しかし、川瀬市長の政治姿勢と財政感覚については極めて私は問題があるように思うのであります。

そこで、今から質問をしたいと思っておりますのは、この問題が簡単に、今市長が述べられたよ

うなことだけで終わってしまうということになると、議会の対応も一つ間違えば議会運営の信頼を市民から失うことにもなりますし、市長の政治姿勢にかかわる問題にもなりますので、もう少し改めて、私は市長に再度質問をしたいと思います。

前回の12日に私が質問をいたしましたときには、その中の第1点目は、50周年の記念歌謡ショーの評価について、市長は非常にいい感触での答弁をしておられるわけであります。例えば、「楽しかった」「よかった」といい評価をされており、「喜んでいる」というように答弁をされております。この感覚は間違いないのかどうか。そして、本当に市民が喜んで、こういうような今の評価であったならば、あえて取り下げる問題でもありませんので、私は、市長がこの12日の私の質問、特に50周年記念歌謡ショーの評価について、改めてどういように感じておられるのかということをもまず第1点目に尋ねたいと思うわけであります。

それから2点目は、今回このような問題を、議員の中には勇気ある取り下げという方もありましたけれども、勇気ある取り下げということは、取り下げたくないやつを取り下げたというように解釈をすることもあるわけであります。あるいはまた議員の中にも、別にやればいいんじゃないかというような意見もあったわけであります。そういうことになるとすると、これを取り下げなきゃならなかったというのか、取り下げるといふ決意をされたその背景というのか、根底はどういうものであるのか。特に12日の答弁との整合性を含めて、市長に、この提案をされる決意をされた経過というものを、もう少し正しく私どもに理解ができるように答弁していただきたい、こういうように考えます。

それから、答弁の中で、例えばきょうの協議会の中では、議会の中から、あるいは一部住民からいろいろなことがあったということではありますが、私は13日の一般質問でも申し上げましたが、いろいろ住民の意識と我々の意識、あるいはまた市長と理事者側の意識のずれがあってはなんということを常々申し上げておるわけであります。そういう点で、一番気をつけなきゃなんことは、一部の人が言ったからさっと変えていくということではなくて、もっと多角的な面で住民の意向を確かめて判断をしていくという姿勢が私は非常に大事だと思っております。これは特に12日に私は申し上げたんです。そういう点について、市長は住民の意識をどういように把握する考えでおられるのか。あるいは、今回の場合には住民の意識をどのように考えられたのか。そういうような点について、市長の率直な見解を問いたいと思うわけであります。

そういう点でその3点について御質問しますが、私は内容については賛成をしておりますけれども、この答弁いかんによっては、私たちも市民から選挙で選ばれておる以上、やっぱり説明ができるようにしなきゃなりませんので、そういう点について答弁をしっかりといただいて、その結果については再質問をさせていただきたいと思っております。以上です。

議長（大原 功君） 市長。

市長（川瀬輝夫君） 御質問なさいました第1点ですが、50周年の評価はどうかと。私の知る範囲内では、非常に好感を得ておるところでございます。

それから次に取り下げの理由、これは先ほどから申し上げましたとおりでございます、何度言っても同じことございまして、諸般の事情によりまして撤回をさせていただきましたので、よろしく願いいたします。

また、住民意識のずれがあるというようなことございしましたが、私、過去15年間、決して皆様方の意識に粗相のないように御意見を拝聴しながら、弥富町の場合、弥富町政をしてみいましたので、そういうずれはございません。もしずれがある場合ならば、いつもずれがないか、今何をするかということをお反省しながら町政に励んできましたので、そういうことはないと思っております。今回の場合にいろいろ心に映りましたので、このような結果でございますので、深い御理解を願います。

〔「議長1番」の声あり〕

議長（大原 功君） 佐藤博議員。

1番（佐藤 博君） 市長の答弁は、恐らくこのようなことで市民が知ったとするならば、かなり市長に対する不信が募るものだと私は思っております。率直に申し上げて、市民感覚とのずれということをお私に申し上げておるわけでありますが、例えば50周年のときにはよかったと。問題が起こらななんだと。今回は、なぜこういうような今の撤回をせざるを得んような問題が起こったか。こういう本質を比較しておられるかどうかということでありまして。これは非常に大事な問題なんです。住民との意識のずれはないというように言っておられますが、まさに意識のずれです。

それは、例えば歌謡ショーをやると。ただで歌謡ショーが見られるということであつたら、だれもそんなに反対はしません。問題は、それに対する裏づけとしての金。結局、50周年のときには、ただで歌謡ショーが見られるというだけだったから、大きな問題にはならななんだんです。今回は、この補正予算で2,000万円という金が組まれたということで、2,000万円という金がかかるということが前面に来たから、市民の中には、こんなときにそんな2,000万もかけて歌謡ショーをやるのかということで、前のときにはあまりそういうような費用の面が議論の対象にならななんだんです。今回は、この費用の面が前面に出た。これは補正予算で組まれたから大きくクローズアップされたということです。前回の場合には当初予算で組まれておるから、あんまり大きな問題にはならなかつたんだね。こういうような点は、まさに住民との意識、感覚のずれを指摘しておることなんです。前回の50周年がよかった、よかったということであるなら、あえて今回やめる必要はないんです。私は、何もこんな修正提案をせずに、当初の出された補正予算で採決をしてもらえばいいと思っております。そして、採決の結果がどう出るかによって、議会の機能というか、良識を市民に知ってもらうという

ことも一つの方法だと思っんです。

ところが、今回こういうような形になったという一つの方向には、市長が総合的に判断して、総合的に判断してと言うだけで済まされるとするなら、これは重大問題なんです。それこそ市長の政治姿勢、認識を私は問わなければならんと思うのであります。そういう点で、市長があくまでも総合的に判断して取り下げた、これだけで済まされるなら、私は了解はいたしません。それはそれなりに市民によく理解をしていただくように努力したいと私は思っております。ところが、やっぱりいいことはいい、悪いことは悪いということが言えるところが議会ですから、本来からいえば、これが提案もされて、議会審議もされて、最終の段階を迎えてこういうようなことになったというのは極めて異例のことです。これについての市長の感覚と責任は非常に大きいということを申し伝えて、私は質問を終わります。

議長（大原 功君） 川瀬市長。

市長（川瀬輝夫君） 言われましたことですが、諸般の情勢に従っているいろいろな決するところがございまして撤回をさせていただきましたので、よろしく願います。

議長（大原 功君） 他に質疑の方、ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（大原 功君） 質疑なしと認め、討論に入ります。

討論の方、ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（大原 功君） 討論なしと認め、採決に入ります。

本案は承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（大原 功君） 御異議なしと認めます。

よって、本案は承認することに決定をいたしました。

~~~~~

日程第3 議案第42号 平成18年度弥富市一般会計補正予算（第3号）の件

議長（大原 功君） 日程第3、議案第42号を議題といたします。

川瀬市長に提案理由の説明を求めます。

市長（川瀬輝夫君） 議案第42号の一般会計補正予算につきまして、歳出の主な内容といたしまして、民生費は、障害者自立支援法の施行に伴いまして支援システムの導入の経費、障害児居宅生活支援費の名称の変更、それから商工費は企業立地指定企業交付奨励金でございます。よろしく御審議方、頼みますようお願い申し上げます。

議長（大原 功君） これより質疑に入ります。

質疑の方、ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（大原 功君） 質疑なしと認め、本案は総務常任委員会・建設経済常任委員会及び厚生常任委員会に付託したいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（大原 功君） 御異議なしと認めます。

よって、本案は以上のとおり付託することに決定をいたしました。

以上をもちまして、本日の議事日程は全部終了いたしましたので、本日の会議はこれにて散会をいたします。

~~~~~

午後 1 時 48 分 散会

本会議の顛末を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

弥富市議会議長 大 原 功

同 議員 渡 邊 昶

同 議員 伊 藤 正 信

